

発達障害(発達特性)

岩崎寿史

おかざきよろず心のクリニック
院長

いわさき・ひさし 1986年東京大学法学部卒業。2003年名古屋大学医学部卒業。2007年名古屋大学医学部附属病院精神科入局。2008年より特定医療法人共和会共和病院に勤務。2010年より同病院医局長を務める。2016年「おかざきよろず心のクリニック」開院、院長を務める。精神保健指定医、精神科専門医・指導医。日本小児精神神経学会認定医、子どものこころ専門医、日本医師会認定産業医。



障害ではなく「特性」 周囲が理解し自立を促す

授業中動き回る、好きな教科にしかなかったり興味がない、片づけが苦手、こだわりが強い、コミュニケーションが苦手などの特性がある子は、発達障害(特性)を持っている可能性がある。しかし、専門の医師と周りのサポートがあれば、伸び伸びと自立して生きていける。

障害ではなく「特性」 周囲が理解し自立を促す

発達障害(発達特性)は、左記のように、様々な特性が単独、または複合的に現れる症状である。

「親が子どもの特性を受け止めることで、子どもの日常生活や社会生活がより過ごしやすくなることも多い。何より効果的なのは、親から子どもへの『ほめ言葉のシャワー』や『短所を長所と見直す』リフレーミング。学校生活や集団の中で苦労することがあっても、それを周囲が悲観し過ぎず、自己肯定感を高めるような接し方をすることで、授業をしなくても日常生活を送ることができ子どもたちは大勢いるので、私は

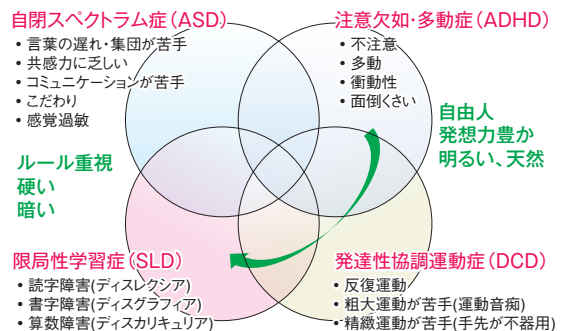
■発達障害(発達特性)

発達障害(発達特性)は、先天的な脳の発達機能の違いにより、幼児期から行動面や情動面、学習面に特性がある状態をいう。主な発達障害の特性は、「自閉スペクトラム症(ASD)」、「注意欠如・多動症(ADHD)」、「限局性学習症(SLD)」、「発達性協調運動症(DCD)」など。それぞれの特性が複合的に現れることが多い。治療法はカウンセリングや投薬、入院などがある。周囲が本人の特性を個性として受け止めることで、支障を感じずに社会生活を送ることができるケースもある。最近では愛着の観点からも研究が進んでいる。

発達障害ではなく、発達特性と称するのが適切だと考えます」と語るのは、おかざきよろず心のクリニックの岩崎寿史院長。

「近年の研究で、統合失調症や双極性障害(躁うつ病)の原因はGSK-3β(グリコーゲン合成酵素キナーゼ3β)の自己リン酸化が細胞のアポトーシスを誘導することだということが分かってきました。GSK-3βが自己リン酸化すると、①神経細胞数の減少②神経細胞体の体積減少③軸索の短縮・樹状突起の枝の減少・シナプスの数の減少、が生じるため、BDNF(神経栄養因子)と神経新生が低下します。つまり、脳の可塑性を支える神経細胞のふさふさした部分(神経ネットワーク)を枯らしてしまうのです。統合失調症も躁うつ病も、GSK-3βが枯らす神経細胞の箇所がそれぞれ違うだけで、統合失調症は灰白質を中心に、躁うつ病は白質を中心に起こっていて生物分子化学的な原因は発達特性と似ていると考えられています。知的障害(自閉スペクトラム症の合併率が高い)の病態解明も進ん

発達特性関連図



でおり、遺伝子変異によるRAC3の異常活性化が明らかになっていいます。また、東京大学・昭和大学のグループが自閉症を脳回路から高精度に見分ける、先端人工知能技術によるバイオマーカーを発見しました。また、ASDの方たちが人工知能を搭載した対話型ロボットとうまくコミュニケーションができること、愛情ホルモンオキシトシンの製剤化を研究する大学もあります。ADHDには治療薬がコンサータ、アトモキセチン、グアンファシンがあり、18歳未満であればビバンセも使えます。ASDの治療薬も今後増えることが期待されます。今のところ癩癩やこだわりを制御するのにアリピプラゾールがよく使われます」

「不安を感じたら、まず受診してください。相談も医師の大切な業務です。発達障害(発達特性)には、短所だけでなく、長所もある。著名人にも発達特性を持つ人は大勢います。『違っていていい！未来がある！』と岩崎医師は語る。